

<売るから楽しむへ 今年のIJT>

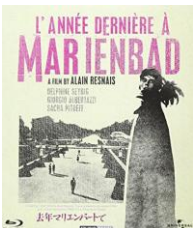
国際宝飾展（IJT）は色々な人やモノに出会う場と思っている。今年も色々な人たちと出会えた。中でも売ることを遊びの場に変えていく人たち。ジャズバーでのフェア、ストラディバリウスでのヴァイオリンコンサートのある個展等。企画する人を含めてそこにいる全ての人たちが楽しむプライベートな空間だからこそその雰囲気。日本独特のジュエリー催事の味気無さ、お洒落感のなさを一掃したい気持ちに同感！かつて“世界で10人の作家”として出展したNYでの事。仕事場でありながら周囲は楽しそうに談笑。午後も4時頃になるとカクテルグラス片手にそぞろ歩く来場者。そのファッションを眺めるのも楽しい。何も手にしていないと誰かがグラスを持ってきてくれる。10時オープンなのに昼頃缶ビール片手にやってくる出展者もいた。仕事はこんな風楽しむものなのかと。カクテルタイムがなくても初対面の人も数日間一緒にいる人も顔を合わせれば、今日のファッションを褒めることから始まり談笑になる。これもパーティ文化の一つと感じるも、日本の“売るだけ”の貧しい催事文化が悲しくなる。今年は楽しい仕事ができそう。



'18 BIZブース

<仮想世界>

何十年も前に見たスウェーデンの未来仮想社会を最近思い起こした。仮想通貨で日本の会社を通じて投資。その見えないお金がどこの国の誰とも解らない相手に攫われて持っていかれた、というのだ！何が何やら解らない。理解するというレベルでないのだ。シマダは現実対応が苦手等という話ではない。そういう時代なのだという事だろう。そしてなんと盗まれた何百億円とかを日本の若手の社長は数日後に被害者に返済できるという会見をしたが… 見回せばPC、スマートフォン等その類のことに囲まれて生活している。丸裸にされ全ての情報が世界中の知らない誰にもさらされているようで気持ち悪い。スマートフォンが出始めの頃、都内の飲食店で男性グループが一括して払った人に夫々がスマートフォンから支払っている様子を見てそんな時代かと少々驚きもしたが現在はそんな可愛い話ではない。仮想世界に追いつけないのである。昭和は健康的な時代だったと思う。



これも印象に残る理解不能の映画でした

<幸せをもたらす仕事>

TVでの話。最初から観ていないが全体の意味は解る。絵を描くのが好きな少女がやがて一流の大学から大学院へ進み就職。建築家として優秀な成績を残しつつ深夜まで働きに働いた。結果、心身の崩壊、退社。旅に出たりしながら自分を取り戻した頃、新聞の求人広告で銭湯に就職。番台に座り客と接しながら昔ながらの木造の立派な建物とその内外をイラストで楽しいチラシをつくり4代目当主と相談しつつ銭湯は変化していく。週3回の変わり湯のひとつ、新潟の蔵元の酒粕風呂は肌がツルツルになると女性客に人気。湯上りに小さなグラスの酒をふるまうと、請われて販売まですることに。外国人客も増え、客たちの交流は更に楽しくなる。彼女は更に次の企画を考えイラストを描く。もはや体調不良はどこかへ。人の幸せは思わぬ処にある、と気付かされる。

<春が来た！>

春はすぐそこにいる。陽射しもきらきらしてきたし待ち遠しい。雪の溶けた下から小さい頭を出すのが春の合図、フキノトウ。春野菜のアクの強さがあの美味を醸し出すのか。などと今は言っているが小学生の頃はこんな苦い草を大人はなぜ喜ぶのか不思議に思っていた。平たく言えば大人の味か。フキノトウを合図



ふつうのクリスマスローズ

にクレソン、セリ、こごみと春キャベツ、タケノコと続く。山梨では家庭菜園も多く“思いもしない場所から出てくるのよ”と言う。そのテの野菜は味がしっかり濃く力強い。山梨に住む楽しみの一つである。



何年も経ってやっと咲いた
ブラッククリスマスローズ

<日常を楽しむ>



アクアマリンが
曳航される舟のようにも見える



マダガスカルローズクオーツの結晶